

## 鼓類のお手入れ・保管方法について



本資料では、文化庁 邦楽普及拡大推進事業で貸与している鼓類を保管場所から移動して演奏できるまで、演奏終了後、鼓類を保管するまでのお手入れ・保管方法を解説します。正しいお手入れ・保管方法を身につけ、大切な楽器と長く付き合しましょう！

## 鼓類について学ぼう

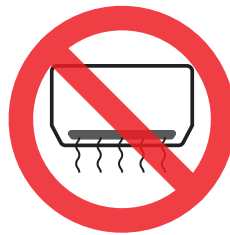
鼓類は、自然の材料を使って製造されている、非常にデリケートな楽器です。ぶつけたり、落としたりすると、破損してしまいます。取り扱いには十分に気をつけ、正しいお手入れ・保管方法を身につけましょう。

### 湿気(水分)には要注意!



鼓類が濡れてしまったら、乾いた布で水分を拭き取り、陰干しをして乾かしてから保管してください。

### 空調\*が直接 当たる場所はNG!



寒暖差の激しい場所や湿度が高すぎたり、乾燥しすぎたりした環境は、鼓類にとっては大敵です。空調が直接鼓類に当たると、乾燥して傷んでしまうので、避けましょう。

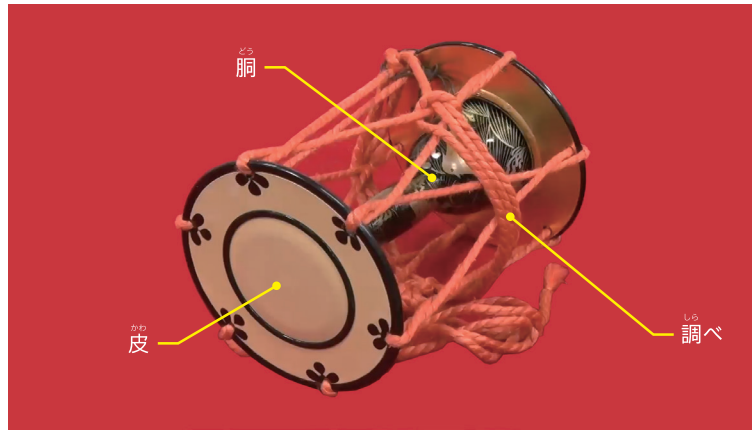
\*空調には、エアコンや扇風機、ストーブなどが含まれます。

### 直射日光が 当たる場所はNG!



空調と同じように、太陽の光が直接鼓類に当たると、乾燥して傷んでしまいます。直射日光が当たる場所での保管は避けましょう。

## 鼓類の各部位の名称



## 鼓類のお手入れ・保管方法

### 鼓類の演奏準備



1. 専用ケースに入れたまま、演奏場所まで運搬します。

運搬する前に、専用ケースの蓋がしっかり閉じているか確認してから運搬してください。

蓋がしっかりと閉まっていないと、運搬している時に蓋が開いて、鼓が落ちてしまうおそれがあります。



2. 専用ケースを水平な場所に置き、鼓を取り出します。

専用ケースの蓋を開け、固定用の紐を外したら、片手で調べを持って、鼓を取り出します。

鼓は、専用ケースから取り出したら、そのまま演奏することができます。

以上で、鼓類が演奏できる状態になりました。

### 鼓類のお手入れと保管方法



1. 演奏後、専用ケースに収納します。

鼓を専用ケースに収納する前に、ケースの中に手ぬぐいを敷きます。

それから、鼓を専用ケースに入れ、固定用の紐で、専用ケースと鼓を固定します。

しっかりと固定できているのを確認して、鼓に覆うように手ぬぐいを被せてから、専用ケースの蓋を閉めます。



2. 鼓は、専用ケースに入れたまま保管します。

鼓は、湿度や乾燥に弱いため、直射日光の当たらない、風通しの良い室内に保管するようにしてください。

以上が、演奏終了後の鼓類を保管するまでの流れとなります。

## 鼓類のお手入れ・保管方法に関する注意点



1. 鼓類が濡れてしまった時は、乾いた手ぬぐいで拭いてから陰干しをします。  
鼓類に使われている木や皮は、水分と相性がよくありません。  
鼓類が濡れてしまった場合は、乾いた手ぬぐいで水気をとってから、陰干しをして、完全に乾燥させてください。  
早く乾かそうとドライヤーなどを使用するのは、絶対にやめてください。



2. 打面を直接、地面などにつけないようにしましょう。  
鼓類の打面を地面などに直接触れさせると、打面に湿気がたまり、演奏できなくなる可能性があります。  
鼓類を置く場合には、打面が地面に接しないように置きましょう。



3. アルコールや濡れた手ぬぐいでは、拭かないようにしましょう。  
鼓類についた汚れを落とすために水拭きしたり、アルコールなどを用いて拭いたりしてはいけません。

## 鼓類のお手法に関するその他の注意事項



1. 鼓類を数か月間演奏しない場合は、空気に触れさせましょう。  
数か月間演奏しない場合は、保管場所から出して、1時間程度、直射日光が当たらない室内で、自然な空気に鼓類に触れさせるようにしてください。  
適切な保管環境については、楽器店に聞きましょう。



2. 不具合が発生しても、自分たちで補修や修理は、絶対にしないでください。  
本資料に記載されている方法で、お手入れや保管をしても、鼓類に傷がついたり、付属品が破損してしまう可能性があります。  
そうした破損を自分たちで補修や修理をすると、場合によっては、更なる事故等につながるおそれがあります。  
不具合が見つかったら、まずは楽器店に問い合わせましょう。

動画と本資料を使って、正しい鼓類のお手入れ・保管方法を身につけ、より長い期間、演奏を楽しめるよう、日々の取り扱いを怠らないよう、心がけてください。

お手入れ・保管方法の動画はこちらから ▶▶▶



本資料は令和5年度 文化庁邦楽普及拡大推進事業により作成しています。